



修学旅行は昨年10月に1泊2日で美浜、若狭両町にまたがるレインボーラインの山頂公園や明通寺(小浜市)などを訪問。伝統工芸や座禅、釣りを体験した。新聞は1人1枚を制作。明通寺をテーマにした新聞を制作した清水陸人君は、三重塔の写真の真上に「国宝」の文字を強調した見出しを置いた。「読者への分かりやすさを心がけた」と言い「アタマの記事に注目してもらえよう写真も大

勝山市北郷小 修学旅行新聞を制作



修学旅行先を記事にした新聞を発表する児童＝勝山市北郷小

した。各自が3本の記事と感想を担当し、写真は教諭の撮影から児童が選んだ。配置や見出しも児童が考えた。記事は下書きを読み合っ
て意見を出し合うなど、他人の目を通した評価にも取り組んだ。担任の平林育美教諭は「修学旅行を、楽しかった」だけで終わらせ
たくなかった。新聞づくりで、伝わりやすい文章の構成を考え、言語力向上につな
がった」と狙いを話していた。

伝わる文章、紙面工夫

NIE(教育)新聞を実践指定校の勝山市北郷小6年生が、修学旅行で訪れた県内観光地の魅力や感想を新聞にし、このほどクラス発表会を開いた。読者を意識し伝える記事の文章を考え、使う写真を選ぶ過程で言語力の向上を図る取り組み。観光地の長所を端的に示せるよう言葉を絞り込み、レイアウトにも工夫を凝らした。

(大西崇弘)

読者意識 言語力向上へ

きくした」と、全体にバランスを考えた点を振り返った。釣り体験新聞を作った谷口煌季君は、見出しを水色と青で統一し、釣りと水のイメージを象徴した。田中風士丸君は、新型コロナウ

イルスの感染対策に取り組む民宿のスタッフの記事で紹介。「いろんな人たちが支えてくれている」としたためた。田中譲乃真君は、バスガイドや民宿について「ほくも人を笑顔にする仕事をしたい」と書いた。

新聞制作にあたっては、福井新聞社の徳島泰彦NIEコーディネーターの講座を受けた。授業や自宅学習、朝読書の時間を活用